

大阪市総合教育センター  
教育振興担当 実践研究グループ  
首席指導主事様

研究コース
A グループ研究A
校園コード (代表者校園の市費コード)
531062

代表者	校園名:	野田小学校
	校園長名:	川辺 智久
	電話:	06-6461-0520
	事務職員名:	児嶋 桜子
申請者	校園名:	野田小学校
	職名・名前:	主務教諭 柳生 智子
	電話:	06-6461-0520

### 令和8年度「がんばる先生支援事業」申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	新規研究 (1年目)
2	研究テーマ	ICTを活用した主体的な学びの実現と、子どものウェルビーイングを高める授業づくり			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を項立てして記載してください。</p> <p>本研究は、ICTを効果的に活用することで、児童が自分で学び方を選び、学習の進め方を調整しながら主体的に学ぶ力を育てることを目的とする。</p> <p>また、学習の過程において友だちと考えを共有・比較しながら学びを深めることで、学習内容の理解を確かなものにするをめざす。</p> <p>さらに、振り返りや自己評価を通して自分の成長を実感できるようにし、安心して学習に取り組める環境を整えることで、子どもの学びに向かう意欲や安心感 (ウェルビーイング) の向上を図る。</p>			
4	研究内容	(1)研究内容の詳細 ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する			
		研究の方向性	教育DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進		
<p>本校では、児童一人一人に学習用端末が整備され、授業におけるICT活用が日常化している。調べ学習や発表資料の作成、学習のまとめなど、さまざまな場面で活用が進んでいる。</p> <p>一方で、授業の中では次のような課題が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用が「調べる・まとめる」などの作業にとどまり、思考の深まりや学びの変容につながりにくい。</li> <li>・学習の進め方が教師主導になりやすく、児童が自ら学び方を選び、調整する場面が十分とは言えない。</li> <li>・学習において「間違えてはいけない」「正しい答えを言わなければならない」という意識から、自分の考えに自信をもてない姿が見られ、安心して考えを出し合いながら学びを深められる環境づくりが必要である。</li> </ul> <p>そこで、本研究では、ICTを「児童が学びを自ら調整するための手段」として位置付け、次の3点に焦点を当てて授業改善を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学びを自ら選び、進める授業づくり 児童が学習の進め方や課題の取り組み方を選択し、自分のペースで学習できるようにする。 ・課題を複数提示し、学習者用端末で選択して学習 ・動画や資料を見て自分のペースで進める ・学習の進み具合をデジタルで確認</li> <li>② 思考の可視化と対話による学びの深化 ICTを活用して考えの過程を見えるようにし、友だちとの対話を通して学びを深める。 ・思考ツールをPCで作成 ・学習者用端末で考えを共有し、友だちと比較・交流 ・写真や動画で考えの過程を記録</li> <li>③ 振り返りを生かした自己調整と安心感の向上 学習の振り返りを蓄積し、自分の成長を実感できるようにすることで、学びへの意欲と安心感を高める。 ・振り返りを学習者用端末で記録・蓄積 ・教師のコメントで次の課題を明確化 ・ポートフォリオ等の学習履歴を見て成長を実感</li> </ol> <p>また、ICTを活用した授業改善の「成果を支える心理的側面 (安心感・所属感)」を可視化する指標としてQ-U (楽しい学校生活を送るためのアンケート) を実施する。</p> <p>本研究は、本校の児童の実態に基づき、特別な指導方法や新たな教材開発を前提とせず、既存の授業にICT活用の視点を加えることで実践できるため、全教員の共通理解のもと継続的に取り組むことが可能である。また、教科や学年に依存せず、すべての授業に共通する「学び方」に焦点を当てているため、研究成果は学校全体に広がりやすく、今後も継続的に発展させることができる。</p>					
(2)継続研究 [2年目] ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する					
(3)継続研究 [3年目]					

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○4月 研究体制の確立・共通理解             <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の柱（①学びの選択 ②思考の可視化 ③振り返りと安心感）の共有</li> <li>・ICT活用の基本方針の確認</li> <li>・各学年の実態交流（子どもの課題の共有）</li> <li>・年間研究計画の提示</li> </ul> </li> <li>○5～6月 基盤づくり             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した授業実践の開始</li> <li>・各学年での実践拡充</li> </ul> </li> <li>○7月 実践の蓄積①・・・「課題選択」「学習方法の選択」に焦点             <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業①の実施「学びの自己決定」をテーマに</li> <li>・ICT活用の事例共有（ミニ研修）</li> <li>・1学期の子どもの変容整理</li> <li>・Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）の実施</li> </ul> </li> <li>○8月 中間整理・研修             <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践の振り返りと課題整理</li> <li>・外部講師等によるICT・ウェルビーイング研修</li> <li>・研究の方向性再確認</li> <li>・Q-Uの結果分析と学級経営・授業改善・個別支援の方略を検討</li> </ul> </li> <li>○9～10月 実践の蓄積②・・・思考の可視化と対話に重点             <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業②の実施「思考の可視化と対話」をテーマに</li> <li>・振り返りの質の向上に焦点</li> <li>・ポートフォリオ・自己評価の活用</li> <li>・各学年の実践交流</li> </ul> </li> <li>○11月 実践の蓄積③・・・振り返りの質の向上に焦点             <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業③の実施「学習の自己評価・成長の可視化」をテーマに</li> </ul> </li> <li>○12月 発表準備・成果整理             <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究成果の整理（授業実践・子どもの変容）</li> <li>・発表資料作成（スライド・冊子）</li> </ul> </li> <li>○1月 研究発表会             <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究発表会の実施</li> <li>・研究成果の公開・共有、指導講評</li> </ul> </li> <li>○2月 次年度への課題整理</li> </ul> <p>出張を伴う研究会への参加、外部講師を招聘する研修会の実施等、経費執行が必要な取組内容を記載してください。</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>(1)継続研究（2年目、3年目）において検証方法の変更の有無を記入してください。</p> <p><input type="checkbox"/> 変更しない。理由</p> <p><input type="checkbox"/> 変更する。</p> <p>(2)大阪市教育振興基本計画に示されている、「<u>子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力</u>」の育成および、「<u>教員の資質や指導力</u>」の向上について、それぞれ見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。（いずれかに☑を入れてください）</p> <p><b>【見込まれる成果1】</b></p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>児童が課題や学習方法を自分で選び、自分に合った進め方で学習を進める姿が増える。ICTを活用しながら、個に応じた学びを進める姿が日常化する。</p> <p>《検証方法》</p> <p>校内調査における「自分で学習内容や学習方法を決めたり、えらんだりしたことがある」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。【R7:87%】</p> <p><b>【見込まれる成果2】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>ICTを通して自分の考えを共有し、友だちの考えと比較・修正しながら学びを深める姿が増える。考えを出して終わりではなく、再構築する学びが見られるようになる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>市小学校経年調査における「パソコンを活用して、自分の考えや意見を友達と共有したり比べたりしていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を76%以上にする。【R7:73%】</p>

<p>6</p>	<p>見込まれる成果とその検証方法</p>	<p><b>【見込まれる成果3】</b>  <input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成  <input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上                  「正しい答えを言わなければならない」という不安が軽減され、間違いを恐れずに考えを表現できるようになる。安心して学習に参加する姿が増える。</p> <p>《検証方法》                  校内調査における「学級や学校は、安心してすごせる居心地のよい場所になっている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。【新規項目】</p> <hr/> <p><b>【見込まれる成果4】</b>  <input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成  <input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上                  学習の振り返りを通して自分の成長を実感し、次の学習に生かそうとする姿が増える。学びが単発で終わらず、継続的に改善されるようになる。</p> <p>《検証方法》                  校内調査における「授業では、学習したことをふりかえる活動がある」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を78%以上にする。【R7:73%】</p>						
<p>7</p>	<p>研究成果の共有方法</p>	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="529 1104 1662 1185"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 8 年 2 月 10 日</td> <td>場所</td> <td>大阪市立野田小学校</td> </tr> </table> <p>◆【必須】 waku<sup>2</sup>.com-bee掲載による共有</p> <p>○掲載の日程（予定）</p> <table border="1" data-bbox="529 1274 1159 1354"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 8 年 2 月 19 日</td> </tr> </table> <p>◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 8 年 2 月 10 日	場所	大阪市立野田小学校	日程	令和 8 年 2 月 19 日
日程	令和 8 年 2 月 10 日	場所	大阪市立野田小学校					
日程	令和 8 年 2 月 19 日							
<p>8</p>	<p>代表校園長のコメント</p>	<p>1. 新規研究（1年目）                  学習の中で「正しい答えを言わなければならない」という不安を感じる子どもの姿に向き合い、安心して自分の考えを表現し、試行錯誤を重ねながら学びを深めていける環境を整えることは、これからの学校に求められる大きな役割であると考えている。そのために、ICTを活用して子どもの考えを見えるようにし、友だちとの対話を通して学びを広げ、振り返りによって自分の成長を実感できる授業づくりを全教員で進めていくことに、大きな意義がある。                  本校では、ICTの活用を単なる学習の効率化や操作技能の習得にとどめず、子ども一人一人が自ら学びを調整しながら、主体的に学びをつくっていくことをめざして研究を進めたいと考えている。本年度はその中核を担う組織として「ICT推進部」を立ち上げ、校内の実践を組織的・計画的に推進していく体制を整えた。ICT推進部を中心に、授業づくりや活用方法の共有、実践の検証と改善を進め、学校全体で取組の質を高めていく。                  こうした取組を通して、子どもたちが「わからないことを恐れずに学び続ける力」「自分の学びを自分でつくる力」を育み、安心感と自己肯定感に支えられた学びの姿、すなわちウェルビーイングの高い状態を実現していきたい。                  本研究は、これからの学校教育の在り方そのものを見つめ直す実践であると捉えている。全教職員が子どもの姿を中心に据え、共に学び続ける学校文化を築いていきたいと考える。</p> <p>2. 継続研究（2年目）</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>						